

## 平成21年度第2回北海道立図書館協議会会議概要

日時：平成21年11月17日（火）午後2時00分～午後4時25分

会場：北海道立図書館会議室

- 出席委員（10名）  
河野会長、吉田副会長、下田委員、高原委員、大久保委員、臼淵委員、西村委員、澤田委員、小杉委員、五十嵐委員
- 欠席委員（なし）
  - ・ 道立図書館職員  
巻淵館長、松尾副館長、榎本業務部長、金山奉仕部長、佐々木北方資料部長、佐藤管理課長、河合業務課長、鈴木市町村支援課長、丸子奉仕課長、日暮資料課長、佐藤参考調査課長、宮本収集保存課長、加藤調査運用課長、辰宮業務課主査

会議概要（○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

### 1 開会

- ・ 会議の公開（傍聴者はなし）
- ・ 会議の成立 10名出席

### 2 館長挨拶

### 3 議題

#### （1）事業推進計画・事業行動計画の達成状況について

金山奉仕部長より説明

発言内容要旨
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 展示コーナーの充実で、年間50回程度の展示とあるが多すぎでは。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 展示は6ヶ所で実施しており、規模の大小や期間も一律ではないが、平均すると1ヶ所当たり年間10回程度で、多すぎるとは考えていない。</li></ul></li><li>○ カウンター業務の一元化について説明を。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一般資料と北方資料の2つのカウンターを一つにして業務を効率的にできないか検討してきたところであり、引き続き公共施設評価を踏まえ、サービス向上のための方策として検討していかなければならないもの。</li></ul></li><li>○ 一元化することに何か問題は、懸念はないか。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 懸念はある。</li></ul></li><li>○ 一元化することは人員削減につながり、サービスの低下する恐れもあることから、難しいのでは。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一元化によるカウンター業務の効率化については、道財政の問題や職員数適正化計画を踏まえ、検討していかなければならない。</li></ul></li></ul>

(2) 平成21年度の活動状況について

佐々木北方資料部長より説明

発言内容要旨
<p>○ 臨時休館の予定を短縮した理由は。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 当初は、システムの更新作業で機能を一時休止することとなるため、利用者へのサービスが低下し、迷惑をかけることから、この間を休館にと考えたが、不十分な状況でも入館したいという利用者もいると考え、休館期間を短縮することとしたもの。</li></ul> <p>○ 既にホームページにも掲載されており、手順としておかしいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 他県ではシステム更新で20日程度休館としている例もあり、今回は、他社の業務システムに変わることから、蔵書点検と併せて、事前に休館予定期間の周知を図っていたところ。道教委とも調整し、結果的には変更することとしたが、ホームページ上で混乱を招いたことは反省している。</li></ul> <p>○ 8月の古本市で大量の図書を提供しているが、除籍の手続は。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 資料整理基準等の規程に基づき除籍手続きはしており、今回の除籍図書は15～20年前の古いもの約2万冊のうち、1万冊を提供している。</li></ul> <p>○ ただ古いということで除籍を。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図書館未設置市町村の図書室活動の充実のため、支援活動用資料として使っていたものであり、一般・北方資料にないものは一般資料等に移し、何年も利用されていないものを対象にしている。</li></ul> <p>○ 帯広市では交換市とリサイクルの2本立で実施しており、交換市では、持ってきた分だけ持帰るので常にストックされる。リサイクルでは、持帰る冊数を制限している。</p> <p>○ 古本市について事前PRは。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 道教委の記者クラブを通じて報道機関にお知らせしている。</li></ul>

(3) 公共施設評価について

松尾副館長より説明

発言内容要旨
<p>○ この評価結果を受け入れることについて、きちんと中身を詰めているか。議論の途中で暗黙の了解などがあったとしたら問題であり、どのように整理されていくか不安。管理部門への指定管理者制度導入ならやむを得ないという考え方もおかしいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 業務委託の拡大という方向は避けられないものであり、管理部門への指定管理者制度導入であれば実質的に業務委託の拡大と変わりはなく、検討の余地はあるものと考えて、道教委から意見を求められたときにやむを得ない旨回答したもの。道教委の実施機関評価では、これを踏まえて、図書館について方向性は一部指定管理者制度導入と整理され、知事評価では、指定管理者制度導入とされたもの。この評価結果を踏まえて、今後、グループ制導入などによる機構の見直しや司書業務の精査などについて検討を進めていく必要がある。</li></ul> <p>○ 指定管理者制度導入については、収益を確保できる施設かどうか大きなポイントであり、開拓記念館は入場料を徴収するが、図書館法上、図書館では徴収できない。</p>

### 発言内容要旨

- 危機感が足りない。公共施設評価実施方針では、評価に当たっては『北海道「公共施設」に関するアンケート調査』を踏まえてとあったが、結果が反映されていないのでは。いつの間にか道のホームページから見えなくなってしまったが、アンケートの集約結果では道立図書館へ期待する声も多かったと思う。
- 指定管理者制度導入は問題が多いということを知事側へ強く訴えるべきであり、こうした問題に直面している道立図書館では、きちっと優先順位を付けてサービスを展開をしていく必要がある。
- 図書館の役割をしっかりと訴え、先を読んだ取組をしなければならないものであり、なし崩し的に物事が進むのを見ているのはいかがかなものか。この問題については、きちんとした議論が必要ではないかと考えている。
- 協議会の役割は何か。単なる懇話会でないとすれば、しっかりと議論し、会としての意見をまとめなければならないのではないか。
- 認識が甘いのでは。道立図書館の動向は、拙速な対応はできないと色々議論している市町村への影響も大きい。十分な検証と議論を経た結果なのか市町村でも重大な関心を持っており、そこも考えて欲しい。知事の判断をどうにかして押し戻すことはできないか。
  - ・ ここに至るまでには、色々主張してきたが、知事の総合的な判断であり、仕方がない。現実の問題として次のステップでどう対処するかが重要である。
- 協議会として意見書を出すべきでは。島根県では、県立図書館の指定管理者制度導入反対の意見書を協議会が出した例もある。協議会が館長に意見書を提出し、それを道教委へ提出するのはどうか。
- 協議会は、諮問に応じて答申する、図書館奉仕に関し意見を述べるという機関であり、この問題については、諮問があったわけではないので答申するという事にはならないが、協議会が意見を述べるということで、意見書を提出することにすればよい。報道機関に入ってもらい、会長から館長へ手交するという事も考えられる。
- 指定管理者でも良い面はあるのではないか。
- 指定管理者の良さについては、現時点ではきちんとした検証結果が示されておらず、直営に戻したところもある。
- どれだけ指定管理者制度導入の経済効果が示されているのか。道立図書館への導入は、他市町村への影響が極めて大きい。そこを考えないで判断してはいけない。
- 館内議論も必要だと思うが、そこは十分尽くされているのか。
  - ・ 評価結果の通知を受けて、状況を全職員に説明した。全体で取り組んでいかなければならないので、具体的にどのように検討していくか話し合った。
- 協議会としては、意見書をまとめる方向で取り進めたい。
  - ・ 了解した。

- (4) その他 榎本業務部長より平成22年度予算要求について説明  
委員からの発言は特になし。